

古代 諏訪の都 榎垣外遺跡を歩く 歴史とロマン 謎に触れる

一般社団法人・大昔調査会と岡谷市教育委員会、岡谷商工会議所は25日、奈良、平安時代の地方政務の中心地跡「榎垣外遺跡」(同市長地)を巡る催しを開いた。諏訪、上伊那地方などから定員いっぱい

約30人が参加。ガイドの解説を聞きながら官衙遺構(役所跡)や遺物の出土地などを見て歩き、古代諏訪の都の歴史とロマン、数々の謎に触れた。

(鮎沢健吾)

大昔調査会が今秋展開する榎垣外遺跡の探究企画と、商議所のまち歩き事業「おかわるく」のコラボイベント。双方の活動に携わる坂間雄司さんと、市教委の山田武文さんが解説を務めた。約1・3き四方の広範囲に及ぶ同遺跡のうち、長地公民館を発着点に東側区域を歩いた。

同遺跡には諏訪郡(現在の諏訪、上伊那)を統治する律令時代の郡衙(郡の役所)があり、長地保育園周辺(長地鎮)では坂間さんと山田さんが、1982年に行った同園建設に伴う調査で掘立柱の巨大な建物跡が確認されたと説明した。出土品を含む総合的な裏付けで中心的な建物「正庁」が一带にあったと特定されており、坂間さんは「721年、諏訪国が独立した際にそのまま国衙になった可能性もある」とした。

スクモ塚古墳(長地源)では、山田さんが「聖徳太子が活躍した頃の築造と考えられている」と解説。明治時代の調査の記録に「くびれ」があるとの表現があり、「くびれがあったとすれば、前方後円墳または帆立貝式の可能性がある」と語った。

約3・3きを2時間ほどか

けて歩き、長地公民館に戻ってドローンの空撮映像からも遺跡のスケールを感じ取った参加者たち。坂間さんは、居住エリアが役職別に分かれていたことも伝え、「山裾で水が豊富にある。南向きの緩やかな斜面であることも暮らしやすかったのではないかと推察していた。



ガイドの解説を聞きながらスクモ塚古墳を見学する参加者。榎垣外遺跡の歴史や価値に触れた=25日、岡谷市長地源